

上海崇明東干潟でクロツラヘラサギの 渡りの大群を発見

俞偉東・袁曉・劉奕・周之宏

訳 福井和二

クロツラヘラサギ (*Platalea minor*) は、大型の渉禽で、コウノトリ目、トキ科、ヘラサギ属に分類されている。主に我が国の東北、朝鮮、韓国で繁殖し、その多くが我が国東南沿海地域、台湾、香港、日本、韓国、東埔寨^{*}とベトナム北部沿海地域で越冬する。かつて、60年代は東アジアの広範囲に分布していたが、近年来、環境破壊と人の干渉によって彼らの生息地は日増しに縮小し、個体群の数は急速に低下した。Birdlife InternationalのMalcolm C. Coulterは、2001年、世界でのクロツラヘラサギの個体数はわずかに800羽ほどであると報じ、国際自然保護連盟 (IUCN) により世界の絶滅危惧種としてレッドデータブックに収録された。我が国では国家二級保護動物となっており、日中渡り鳥保護協定にも取り上げられている。1996年Birdlife Internationalにより組織された中国、日本、朝鮮、韓国、ベトナム、アメリカの鳥類研究者が共同で計画した“クロツラヘラサギの保護、救済活動案”が制定され、種の個体数回復に努力することとなった。

今年(2002)の4月から5月、ちょうど渡り鳥の渡る季節に、われわれは上海崇明東干潟自然保護区において全面調査を行った。4月4日保護区の92大堤防内側の白港口にあるカニ養殖場^{ハイガンゴウ}で2羽のクロツラヘラサギを発見し、4月14日保護区の漁港北側にある水深の浅いカニ養殖場で56羽、2群のクロツラヘラサギを発見、同時に8羽の小群が飛び去ったが、別の1群、51羽はカニ養殖場で静かに休息していた。4月17日と18日元上海動物園の技術者張詞祖が57羽のクロツラヘラサギが休息している様子を写真撮影した。4月19~25日、筆者は再度崇明東干潟のクロツラヘラサギを観察し、21日の朝7時、漁港南側のカニ養殖場の浅い水域で、夜を過ごしたと思える41羽のクロツラヘラサギを観察した。ちょうどその時、カニ養殖場の上空をクロツラヘラサギ22羽が、漁港北側のカニ養殖場に向かって通過した。この時、崇明東干潟に滞在していたクロツラヘラサギは61羽(その後追跡観察したところ内2羽はヘラサギであった)ということになる。5月8日の観察では29羽が漁港南側のカニ養殖場で観察され、4月4日以来35日間の観察であった。2001年3月27日筆者は崇明東干潟漁港附近のカニ養殖場で3羽のクロツラヘラサギを発見、4月23日には個体数が増えて14羽となり、4月28日には渡り終了、その間33日であった。同時に左足に黄色の脚環で標識された1羽のクロツラヘラサギを発見した。今年4月4日にも同様に黄色の脚環で標識されたクロツラヘラサギ1羽を白港口附近のカニ養殖場で観察した。

クロツラヘラサギの1日の行動を追跡観察中に、1日の大多数の時間は休息し、30分から1時間ごとに、上空を円をえがいて飛び、採食場へ移動したり、羽づくろいをしたりするが、多くの時間を休息に費やし、ごく稀に2羽がディスプレイするのを見かけることがある。とりわけ、天候の悪いときは終日休息をとっている。クロツラヘラサギの食物は、養殖の対象にならない小魚、小エビ、プランクトンなどで、カニ養殖の危害とならないため、漁民はクロツラヘラサギの行動にまったく関心を示していない。その上、各養殖場の周囲には隔壁があり、そこへ入るには24時間監視人がおり、みだりに外から入れないようにになっている。したがって、養殖場内は人の干渉がきわめて少なく、クロツラヘラサギの安全のためには理想的な場所となっている。

クロツラヘラサギの主要な生息場所——カニ養殖場；4，5月ころのカニ養殖場は種苗を放流したばかりで，毎日2～3cm水位を増加させ，水深は50～60cmで止まる，したがって，クロツラヘラサギが崇明東干潟に現れるころはすでに，湛水が始まったばかりで，生息場所を次々と交換しなければならない。良好な崇明東干潟の面積は30haで，各カニ養殖場が灌水を開始する時間がそれぞれ異り，したがって水深は一様ではない。とはいえ，クロツラヘラサギにとって適した環境を選択するにはことかかない。しかし，生息場所の不安定なことと，その質の脆弱なことは，クロツラヘラサギが渡ってきて滞在中，転々と場所を換えなければならならず，そは時間を含めて大きな不利益を蒙っている。

文献の記載によると，クロツラヘラサギは上海地区では旅鳥で，毎年春秋の2回，渡りの季節があり，大方は家族群か，あるいは幾つかの家族群が集まった形の群れで，長江河口域を短い時間，休養と，補給のため逗留し，次の飛行に備えて通り過ぎてゆく。長江南岸の上海宝山陳行ダム，南汇 ^{ナンフイ} 附近の干潟，奉賢附近の干潟と崇明東干潟には分布したとうい歴史的記録がある。5月1日，筆者は長江河口の新生島嶼——九段沙湿地自然保護区の下沙干潟水域でチュウシャクシギとハマシギの混群の中で，採食中の1羽のクロツラヘラサギを発見した。彼は，われわれを警戒して下沙浅瀬の南側へ移動した。九段沙の下沙は新し土砂が堆積して出来た島嶼で面積は45000m²ほど，南西側は波が静かで泥質の浅瀬が続く，船や人が立ち入れないため，観察，研究が充分に出来ていない。したがって，長江河口地域を渡りの中継地とするクロツラヘラサギの生息状況の報告や記録が数あるといえども，調査研究は十分とはいえない。

今年，このようにクロツラヘラサギの大きな群れ(61羽)の滞在中，上海崇明東干潟で発見されたこと，しかも，長江河口域を中継地として長時間滞在中継地としたことは前例を見ない。かつて，クロツラヘラサギが長江河口域に生息した歴史的記録も，首肯ける事実である。上海崇明東干潟，九段沙等長江河口域はクロツラヘラサギの渡りにとって，一つの重要な中継地の役目を果たすと同時に，その地理的位置から，アジア，太平洋地域における渡り鳥の重要な渡り路線上にあり，崇明東干潟地域が“国際的重要湿地”であり“中国湿地保護行動計画優先項目”に取り上げられたことは重要な意義がある。

筆者は，この世界的に注目を集めている絶滅危惧種であるクロツラヘラサギの，上海崇明東干潟における渡りの経路，分布，環境，個体数，滞在期間などを生息地のすべてに対する調査研究を行ない，有効な保護措置をとられることを提案し，上海崇明東干潟自然保護区，九段沙湿地自然保護区の管理をさらに強化し，渡り鳥の真の楽園となることを期待する。

訳注

- * 東埔塞 地名であるが不明。